

受験向け SNS における男女別意識差分析 Analysis of gender differences in SNS for junior high school entrance exams

丸山 亜希子¹⁾ 寺口 敏生¹⁾ 上田 真由美¹⁾
Akiko Maruyama Toshio Teraguchi Mayumi Ueda

1 はじめに

2022 年の世界経済フォーラム [1] が発表した「ジェンダーギャップ指数」[2] によると、日本は 146 カ国中 116 位で、主要先進 7 개국 (G7) では前年に引き続き最下位であった。この要因は政治分野と経済分野の取り組みの遅れと考えられており、政府は管理職に占める女性割合を増加させる方針を現在とっている。なお、経済学では、管理職に占める女性割合の低さについて、女性が結婚または出産により仕事をやめる可能性が男性よりも高いために、企業が女性社員への社内教育を積極的に行わないという「統計的差別」の存在が指摘されている。

本研究では、こうした統計的差別が、企業内だけではなく、保護者が子どもへの教育を行う段階にも存在するのかを明らかにすることを目指している。もし出産または結婚により仕事をやめる可能性があることで、女子が子供の頃から十分な学習機会を得られていないのだとすると、女性への統計的差別の影響は過小に評価されていると考えられる。我々は先行研究 [3] において、ベネッセ教育総合研究所が実施した「子どもの生活と学びに関する親子調査 Wave4」の 2018 年のデータ [4] を分析し、子の性別による保護者の教育意識を調べている。ここではデータ集計により、以下のような結果が得られている。まず、保護者の希望する子の進学段階など将来に対する意識は女子よりも男子の方に親は不安や熱意を感じている。また、女子よりも男子の方が親の勉強にかかわりが強い傾向にある。行動を伴う親の意識としての中学受験経験の有無については、全国計でみると男子の方が女子よりも受験経験が多い。これらの結果により、やはり男子の方が女子よりも子供の頃から教育面での親の働きかけが多いと考えられる。ベネッセ教育総合研究所のデータは所定の間に回答する形式であった。これに対して本研究では、自発的に議論のできる場として SNS に投稿されたデータを対象に分析を行う。本稿では、受験情報に関する Web 掲示板における書き込みを調べ、子の性別によって親の教育意識が異なるのかを調査する。

本稿の構成は以下のとおりである。2 章では女子教育の重要性について経済学の観点から確認する。3 章では SNS 上における親の教育意識に関する調査分析を行う。4 章でまとめと今後の課題について述べる。

2 女子教育の重要性

2022 年度のジェンダーギャップ指数では、日本は特に「経済」と「政治」分野での順位が低かった。政府は「女性版骨太の方針 2022」[5] の中で、政治分野の取り組みの遅れと、管理職の女性比率の低さに代表される経済分野の取り組みの遅れがその要因であるとしている。

日本の管理職の女性比率の低さの原因は、労働経済学

の分野でもこれまで研究が行われている [6]。その 1 つ

の説明に、女性が結婚や出産で仕事をやめる可能性があるために、企業が女性社員への投資効果を低く見積もり、男性よりも社員教育を施さないという「統計的差別」が存在するというものがある。文献 [7] では実際、男女間の賃金格差の計測により、キャリア形成の初期段階ですでに男女の賃金格差が存在することを実証している。また、文献 [8] は、大手企業の人事ファイルにより、昇進では男性が優先される傾向にあり、昇進速度にも大きな男女差があることを実証している。

また、女子教育の重要性は経済学の理論を用いると以下のように説明できる。まず、男女に関わらず、教育を受けると通常、労働の生産性が上昇し、これにより賃金率が上昇し (人的資本論)、より豊かな暮らしが手に入る。さらに、女性の賃金率上昇 (または労働環境の改善) は、夫婦間における女性の交渉力を上昇させる [9]。なお、この賃金率上昇は、女性全体の賃金率上昇でよく、本人の稼得所得の上昇でなくてもよい。女性の賃金率上昇は、女性が離婚をより選択しやすくなることを意味し、これが配偶者への暗黙の「脅し」となり、夫婦関係において女性の立場をより強くする。すなわち、女性がより居心地の良い結婚生活を送ることができるようになる。実際、文献 [10] はアメリカにおいて、女性の賃金率上昇が妻へのドメスティック・バイオレンスを減少させたということを実証している。

本研究は、このような統計的差別が保護者による子育て段階においても存在するのかが、すなわち、女子を持つ保護者が、男子と比べて女子に教育を施さない傾向があるのかを調べる。もし子育て段階でこうした女子への統計的差別が見られるならば、女性への統計的差別はより深刻なものであると考えられる。

3 受験向け SNS における親の意識調査

本章では、保護者が自発的に議論できる SNS に投稿されたデータについて分析し、子の性別によって保護者の教育意識が異なるのかを調べる。

3.1 調査対象データ

本稿では、株式会社インターエデュ・ドットコムが運営する掲示板形式の SNS であるインターエデュ・ドットコム [11] (以下、「インターエデュ」と呼ぶ) のデータを使用する。当該 SNS は幼稚園から大学、塾・予備校までのカテゴリーを設けており、「中学校」カテゴリーでは主に中学受験に関する情報交換が行われている。中学受験準備は子自身ではなく、親が主導で行うと一般に言われており、中学受験に関する書き込みはほとんどが保護者によるものと考えられることから、保護者の子への教育意識の確認に活用する。

インターエデュの「中学校」カテゴリーは、さらに「国立中学校」「都立中学校」「公立中学校」「男子中学校」「女子中学校」「共学中学校」「男女別学中学校」のカテゴリーに細分化されている。本稿では、この中の「男子中学校」および「女子中学校」カテゴリーに掲載

表1 志望校別特別講座の開講・非開講による分類

分類名	対象とする中学校
男子 A 群 (33 校)	麻布、海城、開成、駒場東邦、芝、本郷、武蔵、早稲田、早稲田大学、浅野、栄光学園、慶應義塾、サレジオ学院、聖光学院、大阪星光学院、甲陽学院、灘、東大寺学園、北嶺、洛星、攻玉社、逗子開成、桐朋、明大中野、成城、東京都市大学附属、世田谷学園、鎌倉学園、高輪、ラ・サール、六甲、東海、海陽
男子 B 群 (37 校)	足立学園、京華、学習院、暁星、佼成学園、城北学園、巣鴨、聖学院、成城、世田谷学園、高輪、獨協、日本学園、本郷、立教池袋、明法、浅野、栄光学園、藤嶺学園藤沢、武相、横浜、城西川越、城北埼玉、立教新座、静岡聖光学院、南山、名古屋、東山、清風、明星、甲南、淳心学院、滝川、報徳、函館ラ・サール、北嶺、サレジオ
女子 A 群 (24 校)	桜蔭、鴎友学園女子、頌栄女子学院、白百合学園、女子学院、東洋英和女学院、豊島岡女子学園、雙葉、吉祥女子、洗足学園、フェリス女学院、浦和明の星女子、南山、四天王寺、神戸女学院、学習院女子、横浜共立学園、立教女学院、大妻、共立、山脇学園、品川女学院、恵泉女学園中学、横浜雙葉
女子 B 群 (84 校)	愛国中学、跡見学園、江戸川女子、鴎友学園、大妻中、大妻中野、川村、神田女学園、共立女子、国本女子、京華女子、恵泉女子学園、光塩女子学院、麴町学園女子、香蘭女学院、品川女子学院、淑徳 SC、昭和女子大学附属 昭和、実践女子学園、十文字、女子聖学院、女子美術大学付属、聖心女子学院、聖ドミニコ学園、瀧野川女子学園、玉川聖学院、田園調布学園、東京家政学院、東京家政大学附属女子、東京女学館、東京女子学院、トキワ松学園、中村、日本大学豊山女子、富士見、富士見丘、普連土学園、文京学院大学女子、三輪田学園、目黒星美学園、和洋九段女子、大妻多摩、共立女子第二、晃華学園、白梅学園清修、東京純心女子、桐朋女子、神奈川学園、鎌倉女学院、鎌倉女子、カリタス女子、函嶺白百合学園、北鎌倉女子、相模女子大学、湘南白百合学園、聖セシリア女子、清泉女学院、捜真女学校、日本女子大学附属、聖園女学院、横浜女学院、大妻嵐山、淑徳与野、国府台女子学院、和洋国府台女子、不二聖心女子学院、名古屋女子大学、愛知淑徳、セントヨゼフ女子学園、京都女子、同志社女子、ノートルダム女学院、大阪女学院、大谷、帝塚山学院、プール学院、小林聖心女子学院、松蔭、甲南女子、神戸海星女子学院、親和、賢明女子学院、育英西、安田女子

表2 対象としたデータ数

	スレッド数	名詞出現総数
男子 A 群	653	1420
男子 B 群	141	293
女子 A 群	333	693
女子 B 群	321	624

されている学校を分析対象とした。「男子中学校」または「女子中学校」カテゴリーにはそれぞれ、学校ごとの掲示板が存在し、その内部に、その学校に関連した単一テーマを扱う複数のスレッドが存在する。各スレッドにおいては、ある特定の話題に関して議論や交流が行われている。

本稿では、2020年2月1日～2023年1月31日の過去3年間に更新のあった男子中学校（70校分）と女子中学校（108校分）の掲示板のスレッドタイトルを調査対象として収集した。（ただし、一部スレッドにおいて、2020年2月以降のデータが存在しない場合もある。）なお、期間の区切りは、大手塾における新学年が2月1日から始まることによる。データ収集は2023年2月8日～2月10日に行った。

3.2 分析方法

調査対象期間に収集したスレッドタイトルを形態素解析し、単語の出現回数を分析した。調査対象となったスレッド数は、男子中学校が794スレッド、女子中学校が654スレッドである。分析には、株式会社ユーザーローカルが公開するテキストマイニングツール [12] を使用した。

また、人気校とそれ以外の学校掲示板によって話題が異なるのかを調べるため、大手塾が志望校別特別講座を開講する人気中学校とそれ以外の中学校に分類し、分析を行った。より具体的には、SAPIX、早稲田アカデミー、四谷大塚、日能研、Gnoble、Genius、希学園、馬淵教室、浜学園において、2023年5月26日時点で志望校別講座が設けられている中学校を受験人気校と定義し、以下ではこれらの中学校をA群と呼ぶこととする。一方、

インターエデュに掲載されているA群以外の男子中学校または女子中学校をB群と呼ぶことにする。各分類に含む中学校を表1に示す。

この分類によるスレッド数および名詞出現総数を表2に示す。これらの数字から、男子中学校においては人気校にスレッドが集中し、女子中学校においては偏りなくスレッドが存在していると解釈することもできる。

分析のためにまず、インターエデュから抽出されたスレッドタイトルから、表1に従った分類単位のデータを作成し、ユーザーローカルのテキストマイニングツールを使用して、各名詞の出現回数を導出した。その後、各分類における話題の違いを比較するため、分類ごとに各名詞の相対度数を算出した。相対度数は、各分類における各名詞の特徴度合いを表し、以下の数式によって算出し、

$$\text{相対度数} = \frac{\text{各名詞の出現回数}}{\text{各分類に含まれる全名詞の出現回数}}$$

各分類における話題の特徴度合いや傾向を評価した。

3.3 分析結果

まず、各分類の特徴をワードクラウドを用いて確認する(図1)。頻出する学校名については、スレッド数に影響がないようにした上で削除した。男女とも、「合格」「入試」「受験」「入学」「通学」「実績」といった受験に関する単語が多く出現している。一方、男子中学校に頻出する名詞として「併願」「高校」「対策」「志望」「成績」「結果」があり、女子中学校では「偏差値」「推薦」「内部」「勉強」「いじめ」「服装」などが頻出し、男子よりも女子の方が生活面に関する言葉が頻出する傾向があることが確認できる。

次に、より詳細な各名詞の出現傾向を調べた(表3)。表の各数値は、ある分類における相対度数を、比較する2つの分類の相対度数の和で割ったものである。表3に記載した名詞は、分析対象校全体(母集団)で合計20回以上出現した頻出名詞である。

最初に、男子全体と女子全体と比較した場合に、以下のことが読み取れる。

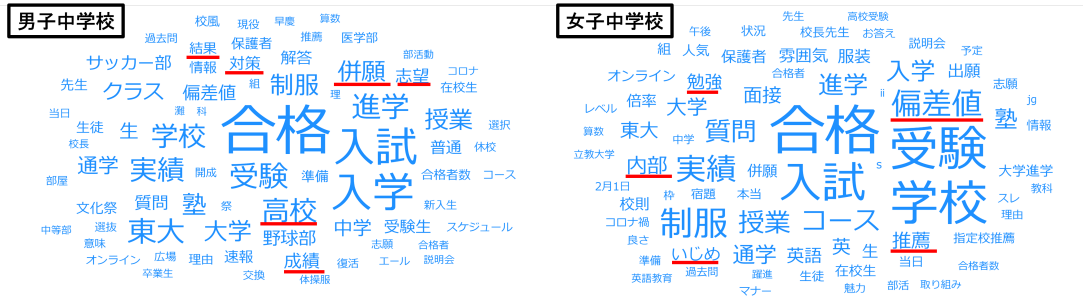


図 1 男子中学校，女子中学校に対する投稿スレッドにおける特徴的な名詞

表 3 分類間の名詞の出現比率

	男子全体	女子全体	女子 A 群	女子 B 群	男子 A 群	女子 A 群	男子 B 群	女子 B 群
合格	48.0	52.0	43.1	56.9	55.0	45.0	18.3	81.7
入学	63.0	37.0	54.6	45.4	61.3	38.7	64.0	36.0
入試	46.9	53.1	49.2	50.8	45.6	54.4	53.4	46.6
東大	60.6	39.4	47.4	52.6	63.7	36.3	46.0	54.0
受験	34.2	65.8	52.2	47.8	34.1	65.9	31.3	68.7
高校	83.0	17.0	0.0	100.0	100.0	0.0	58.7	41.3
実績	44.8	55.2	31.0	69.0	56.5	43.5	34.7	65.3
塾	50.1	49.9	51.2	48.8	52.7	47.3	26.2	73.8
大学	52.8	47.2	8.3	91.7	88.6	11.4	0.0	100.0
制服	38.4	61.6	40.3	59.7	44.9	55.1	26.2	73.8
授業	45.1	54.9	44.1	55.9	49.4	50.6	34.7	65.3
学校	32.0	68.0	30.0	70.0	40.6	59.4	33.6	66.4
併願	63.7	36.3	69.2	30.8	55.9	44.1	76.2	23.8
進学	52.3	47.7	19.7	80.3	67.9	32.1	57.5	42.5
通学	45.4	54.6	55.8	44.2	45.6	54.4	29.9	70.1
生	53.6	46.4	60.0	40.0	53.9	46.1	0.0	100.0
質問	33.9	66.1	44.1	55.9	41.1	58.9	0.0	100.0
偏差値	32.0	68.0	20.5	79.5	49.4	50.6	31.3	68.7
コース	20.4	79.6	57.5	42.5	9.8	90.2	51.6	48.4

まず、「合格」「入試」「実績」「塾」「大学」「授業」「進学」「通学」「生」という単語が、受験に関する掲示板という特性から、男女共通でよく出現している。

次に、男子全体により多くみられる名詞として、「入学」「東大」「高校」「併願」があり、中学校だけでなくその後に関する単語も頻出している。元データであるスレッドのタイトルを確認すると、「高校」については「中学から高校進級について」「高校募集について」「高校の追加合格」など、高校進学に関するものが多い。「入学」と「併願」については、目前の中学受験とその直後に関する話題が多く、「入学」については入学準備に関する心配、「併願」については併願先の心配に関する話題が多かった。一方、女子全体により多く見られる名詞として、「受験」「制服」「学校」「質問」「偏差値」「コース」があげられる。「学校」は、元データを確認すると「学校の雰囲気や通塾率について」「学校説明会」など、書き込みを行った学校を指す場合がほとんどであり、中学校を意味する。「制服」についても中学校の制服に関するものである。また、「偏差値」については、「偏差値下がりしましたね」など中学受験についての偏差値の話題が多かった。「受験」については、元データを確認すると「受験のための小学校選び」「受験日程」など、中学受験に関するものが多かった。

さらに、A 群と B 群に分類して比較する。男女で比較すると男子の方に頻出した「入学」は、男子 A 群と女子 A 群との比較、男子 B 群と女子 B 群との比較においても、それぞれ男子の方に頻出する。「東大」については、男子 A 群と女子 A 群を比べたとき、男子 A 群の方に頻出する。また、女子同士を比較した場合は、女子 B 群の方にやや多く出現する。「高校」は男女で比較すると男子の方に 83.0%と非常に多く出現し、女子 B 群にも出現するが、女子 A 群には全く出現しない。男女で比較すると女子の方に頻出した「受験」は、男子 A 群と女子 A 群との比較、男子 B 群と女子 B 群との比較においても、それぞれ女子の方に頻出する。「制服」は、女子 A 群よりも女子 B 群に頻出し、元データでは女子 B 群において「かわいい」という言葉が見られた。「学校」は、男女で比較したときに女子に頻出したが、女子 A 群と女子 B 群との比較したとき、女子 B 群の方に 70%とより多く出現する。

次に、男女で同程度頻出した名詞について、A 群と B 群に分類して比較する。「塾」については、男子 B 群と女子 B 群を比較すると女子 B 群の方に多く出現する。「大学」については、男子 A 群と女子 A 群を比較したとき、男子 A 群の方に 88.6%と非常に多く出現する。また、女子 A 群と女子 B 群を比較した場合は、女子 B 群

の方に 91.7%と非常に多く出現している。「実績」は元データを確認すると、「大学合格実績感想」「大学進学実績について」「何故この実績でこの偏差値なんでしょうか？」など、主に大学への合格実績を意味する言葉である。男女での比較および男子 A 群と女子 A 群の比較では出現頻度の差は小さいが、男子 B 群と女子 B 群の比較では女子 B 群によく出現している。また、女子 A 群と女子 B 群を比較した場合にも、女子 B 群の方によく出現している。「進学」は「進学実績」「内部進学について」「中学から高校への進学」などのスレッドに含まれる言葉であり、女子 A 群よりも男子 A 群に、また、女子 A 群よりも女子 B 群において頻出している。「通学」は男女で見たときにその差は小さいものの、やや女子の方に多く出現する。女子 A 群と男子 A 群を比較すると、差は小さいが、女子 A 群の方にやや多く出現する。女子 B 群と男子 B 群を比較すると、女子 B 群の方に多く出現する。

表 3 にある名詞以外に男女差のみられた興味深い言葉に「推薦」と「面接」がある。まず、「推薦」という言葉が、男子全体で 27.8%、女子全体で 72.2%と女子の方に頻出した。特に、女子同士で比較すると、女子 A 群が 27.8%、女子 B 群が 72.2%と、女子 B 群に見られた。また、「面接」については、男子全体で 0%、女子全体で 100%と女子にだけ頻出した。女子同士で比較すると、女子 A 群が 78.3%、女子 B 群が 21.7%と、女子 A 群に頻出している。

3.4 考察

まず、男子全体では中学校だけでなく高校など、その後に名詞が頻出していたが、女子全体では中学校や中学生生活に関する名詞が比較的多く見受けられた。

また、心配事が発生する時点についても男女で異なる傾向が見られた。具体的には、男子に「併願」「入学」など目の出来事に関するものが多くみられた。一方で、「受験」は女子の方に頻出する単語であったが、元データではほぼ中学受験に関する話題であったのに対し、男子については「成績不振による外部受験」「外部大学受験された方」といったスレッドが見られ、大学受験に関する話題が女子よりも多く含まれていた。

女子 B 群については、「東大」「大学」「実績」「進学」といった言葉について、女子 A 群よりも頻出するという興味深い結果が得られた。女子 B 群は中学受験を経験している時点で大学進学を視野に入れていると考えられるが、女子 A 群は女子 B 群よりも進学したい大学がすでに決まっているなどの可能性が考えられる。

また、男子 B 群については分析対象とした学校数は 37 校と男子 A 群の 33 校よりも多かったものの、スレッド数は他の分類と比べて少なかった。男子 A 群のスレッド数は女子全体の総スレッド数とほぼ同数あったことから、男子を持つ保護者は、女子を持つ保護者よりも受験人気校の望む傾向にある可能性がある。

このほか、女子よりも男子に「東大」という言葉が頻出しており、男子の方が早くから高い目標を掲げている可能性がある。

4 まとめと今後の課題

本稿では中学受験に関する SNS において、子の性別によって保護者に意識差があるのかを、受験情報サイ

ト「インターエデュ・ドットコム」のスレッドタイトルデータを使用し、名詞の出現回数を用いて検討した。

まず、「合格」「入試」「実績」などの単語が、受験に関する掲示板という特性から、男女共通して出現した。一方特徴として、男子中学校では「高校」や「東大」など中学校より後にに関する単語が頻出し、学歴を意識していることが分かった。一方、女子中学校では主に中学校生活に着目した投稿が多いことが分かった。

今後の課題は以下のとおりである。得られた結果から、男子の方が女子よりもやや生活面よりも大学受験や高校進学など学歴を強く意識している可能性が考えられる。しかし、本稿の分析ではスレッドタイトルを対象とした分析にとどまったため、今後スレッドの内容をより詳細に分析するとまた異なる傾向が確認される可能性がある。さらに、子供の性別判断が困難であったため、本稿の分析では共学中学校は分析対象としなかった。共学中学校を分析することで、より正確な子供の性別による保護者の意識の違いを確認できるため、今後は性別判断などを伴った共学中学校の分析も行いたい。また、塾の特別講座の対象とならない男子中学校の書き込みが非常に少なかったため、この問題に対する分析方法も今後検討していきたい。

謝辞

本研究は流通科学大学特別研究費の助成を受けた。ここに記して感謝の意を表する。

参考文献

- [1] 世界経済フォーラム, <https://jp.weforum.org> (2023.6.10 確認)
- [2] World Economic Forum, “The global gender gap report 2022”, (2022). <https://www.weforum.org/reports/global-gender-gap-report-2022/> (2023.6.10. 確認)
- [3] 丸山垂希子, 上田真由美, “子どもの性別による親の教育意識に関する調査分析”, DEIM2023, 5a-6-4, (2023).
- [4] ベネッセ教育総合研究所, “子どもの生活と学びに関する親子調査 Wave4”, (2018).
- [5] 内閣府 男女共同参画局, “女性版骨太の方針 2022”, (2022). https://www.gender.go.jp/policy/sokushin/pdf/sokushin/jyuten2022_honbun.pdf (2023.6.10. 確認)
- [6] 大沢真知子, “女性労働”, 日本労働研究雑誌, vol. 717, pp.18-21, (2020).
- [7] 原ひろみ, “女性の活躍が進まない原因”, 川口大司編『日本の労働市場—経済学者の視点』, 有斐閣, pp.150-181, (2017).
- [8] Kato, T., Kawaguchi, D. and Owan, H., “Dynamics of the Gender Gap in the Workplace: An Econometric Case Study of Large Japanese Firm.” RIETI Discussion Paper Series 13-E-038, (2013).
- [9] Pollak, A. R. “Bargaining Power in Marriage: Earnings, Wage Rates and Household Production.” National Bureau of Economic Research Working Paper 11239, (2005).
- [10] Aizer, A. “The Gender Wage Gap and Domestic Violence.” *American Economic Review*, Vol.100 (4), (2010).
- [11] 受験と教育の情報サイト - インターエデュ・ドットコム, <https://www.inter-edu.com/> (2023.6.10. 確認)
- [12] User Local, AI テキストマイニング, <https://textmining.userlocal.jp/> (2023.6.10. 確認)